



認知症になっても
安心して暮らせるまち甘楽を
みんなで作らしましょう

認知症サポーターに 参加しませんか

平成16年に「痴ほう」から「認知症」へと呼び方が変更になりました。これは、病気の実態を適切に表していくために「認知症」という表現となったためです。

これを契機にみんなで認知症を正しく理解し、認知症の人とその家族を支え、誰もが暮らしやすいまちをつくっていく運動が「認知症サポーター制度」です。町でも多くの方に認知症サポーターになっていただいています。

認知症サポーターとは

認知症サポーター養成講座を受けた人を「認知症サポーター」と呼びます。認知症サポーターは、何かを特別にやってもらうものではありません。認知症を正しく理解し、認知

症の人やその家族を温かく見守る応援団になっていただくものです。その上で自分のできる範囲で活動していただくものです。

たとえば、友だちや家族にその知識を伝える。認知症の人やその家族の気持ちを理解するなど、自分でできる範囲で手助けをするなど人それぞれです。

認知症サポーター 養成講座を受けるには

養成講座は、地域包括支援センターの職員が行政区、各種サークル、企業などの会合へお伺いして、「認知症とはどんな病気」「私たちにできることは」といった内容でお話するものです。難しいものではなく、1時間くらいの講座です。

講座を受けた方は「認知症サポーター」に認定され、認知症を支援する印としてオレンジリングが支給されます。



認知症サポーターのしるし「オレンジリング」

★★ 養成講座受付中! ★★

甘楽町の認知症サポーターは、9月現在で270人です。

皆さんも参加してみませんか。養成講座の出前を希望される団体は、地域包括支援センターまでご連絡ください。